

カキクダアザミウマの発生予察と防除

楠本 公治・永水 計親・黒柳 直彦¹⁾
(福岡県飯塚病害虫防除所・¹⁾福岡県嘉穂農業改良普及所)

Forecasting of occurrence and control of *Ponticulothrips diospyrosi*
HAGA et OKAJIMA in Kaho District, Fukuoka Prefecture in 1987. Kouzi
KUSUMOTO, Kazuchika NAGAMIZU and Naohiko KUROYANAGI (Iizuka Plant Protection Office, Iizuka, Fukuoka 820, ¹⁾Kaho Farm Agent Office, Kaho-gun, Fukuoka 820)

カキクダアザミウマは福岡県では1984年に久留米市と柏屋郡久山町で初発生が確認され、1987年現在、県内16市町村に発生分布が拡大している。筑豊地域では嘉穂郡庄内町入水で1985年に、飯塚市建花寺で1986年に初発生を認めた。

侵入初期のカキ園では被害葉や被害果実の発生は局地的であり、成虫の越冬場所の発見も難しいため翌年の防除適期の把握は困難である。

著者らはカキクダアザミウマの発生予察と防除について調査を行い、若干の結果を得たのでその概要を報告する。

報告に先立ち、調査に御協力いただいた嘉穂農業協同組合庄内町柿部会と飯塚市農業協同組合柿部会の方々に厚く御礼申し上げる。

調査方法

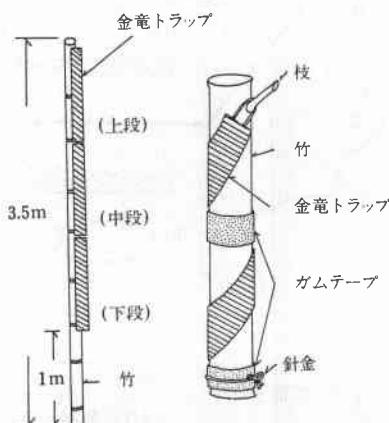
長さ4.5mの竹の先端部分から3.5mの間に上、中、下3個の金竜[®]トラップ（クミアイ化學製）を取り付けた竹トラップ（第1図）を、前年カキクダアザミウマの被害が認められたカキ園に設置した。竹トラップの設置は1987年4月14日に、庄内町入水の1園に5本、飯塚市建花寺のA園に4本、B園に5本をカキ樹の主幹部に平行に1本ずつ立て、ひもで枝に固定する方法で行った（第2図、第3図）。各トラップのカキクダアザミウマの誘殺数調査は、4月16日および20日、5月1日、13日の4回行い、各調査終了時に新しいトラップと交換した。

一斉防除の時期は、トラップによる誘殺数によって決定し、文章情報によって各地区の柿部会に連絡した。防除効果は殺虫剤散布後の誘殺数および巻葉（被害葉）の発生程度によって判断した。

調査結果

2回目の調査である4月20日に各地区のトラップで、カキクダアザミウマ成虫の誘殺を認めた。庄内町入水では、設置した15個の金竜トラップのうち上段の5個で、1個当たり0.2頭、中段のもので1個当たり0.2頭が誘殺された。飯塚市建花寺Aでは上・中・下段のトラップで、それぞれ1個当たり3.3頭および3.3頭、2.3頭が誘殺された。また、建花寺B園では上・中・下段それぞれ1個当たり0.4頭および1.4頭、0.2頭が誘殺された。誘殺数はカキの樹冠部に当る、地上2~3mの高さの上段および中段のトラップで多い傾向が認められた（第4図）。

この調査に基づき4月24日と4月29日に、プロチオホス水和剤800倍液およびピリダフェンチオン水和剤1000

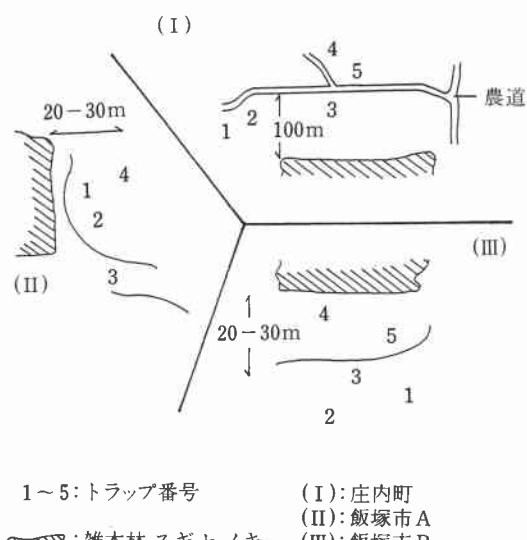


第1図 金竜トラップの設置方法

左：全体の状態、右：各段の状態



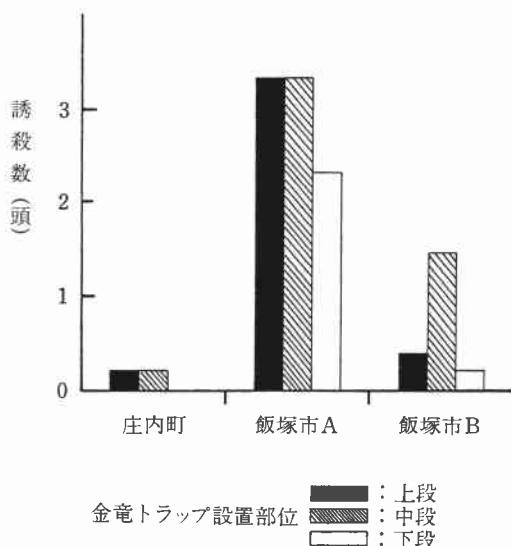
第2図 金竜トラップの設置状況



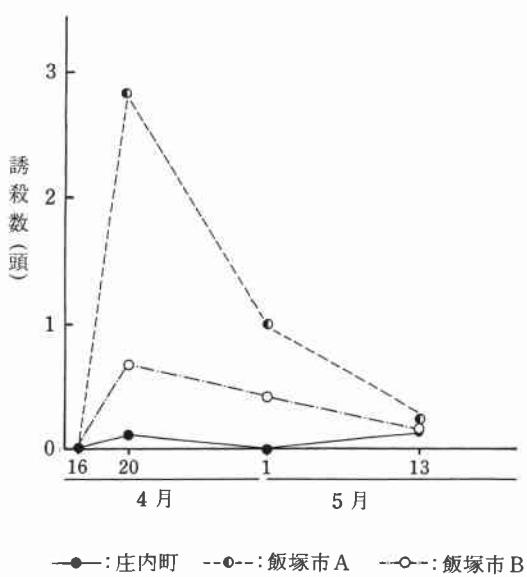
第3図 金竜トラップ設置現地地図

倍液による一斉防除を各部会で実施した（第1表）。5月1日の調査では各地区とも誘殺数は前回の調査の約半分程度に減少していたが、飯塚市A圏では他地区より多い誘殺が認められたので、第1表に示すように5月4日に2回目の防除を実施した。

5月13日の調査では各地区とも成虫はほとんど誘殺されなかった（第5図）。



第4図 設置部位別金竜トラップ1個あたりのカキクダアザミウマ誘殺数(4月20日)



第5図 地区別金竜トラップ1個あたりのカキクダアザミウマの誘殺数

第1表 地区別薬剤散布時期

地区名	薬剤名	濃度	散布月日
庄内町 イ ロ	プロチオホス水和剤	800倍	4・29
飯塚市 A イ ロ ハ	プロチオホス水和剤	800倍	4・24
	ピリダフェンチオン水和剤	1000倍	5・4
飯塚市 B イ ロ ハ	ピリダフェンチオン水和剤	1000倍	4・24
	プロチオホス水和剤	800倍	

イ、ロは金竜トラップ調査を実施した場所。

ハは金竜トラップ調査を実施しなかった場所。

第2表 地区別被害葉発生状況（5月13日）

地区名	巻葉発生状況	
庄内町 イ ロ	巻葉：発生認めず	
	巻葉：発生認めず	
飯塚市 A イ ロ	巻葉：発生認めず	
	巻葉：発生認めず	
飯塚市 B イ ロ ハ	1樹あたりの巻葉 2～3枚：2樹	
	1樹あたりの巻葉 2～3枚：3樹	
	巻葉：発生認めず	
	巻葉：発生認めず	

各区あたり5樹調査。

被害葉（巻葉）は5月1日の調査で飯塚市A園の一部で認められたが、防除後の5月13日の調査では各地区とも発生予察を実施した場所やその他の場所でも大変少なく、発生の多い場所でも1樹当たり2～3枚が見つかるにすぎなかった（第2表）。

考 察

調査場所は初発生後2年目および3年目の園で、1986年の発生状況は5月中旬に巻葉被害が多いところでも1樹当たり4～5枚程度であった。1987年は被害葉や被害果実の増加が予想されたが、調査結果が示すように金竜トラップによる発生予察に基づく一斉防除は効果があったと思われた。

昭和63年度福岡県果樹病害虫防除基準には、「カキク

ダアザミウマに対しては、4月下旬および5月上旬の薬剤の1～2回散布による防除効果が高い」という指導項目がある。1987年は上記のようにトラップ調査に基づき1回目の防除を4月5～6半旬に、2回目の防除を5月1半旬に実施するよう指導したが、5月1日および5月13日の誘殺数が4月20日の調査時より減少していたことや、5月13日の巻葉の発生が少なかったことから、筑豊地域でも4月下旬および5月上旬の薬剤散布は、カキクダアザミウマ越冬成虫の防除に有効であることが確認された。

カキの新葉の展開に伴い、4月24日頃より金竜トラップの黄色がカキ園内で日立たなくなってきたことも、薬剤散布と合せて5月1日の誘殺数が少なかった原因と考えられたが、巻葉被害は5月1日の調査時に確認されていることや、4月下旬の1回防除だけでも巻葉の発生が少なかった地区がみられたことなど、展葉初期の4月下旬の薬剤散布が重要であると思われた。

引 用 文 献

- 1) 逸見 尚 (1979) 植物防疫 33(6) : 231-235.
- 2) 逸見 尚・橋本修二 (1984) 植物防疫 38(7) : 312-315.
- 3) 農林水産省農蚕芸局植物防疫課 (1986) 農作物有害動植物発生予察事業調査実施基準 : 239-240.
- 4) 山田健一 (1987) 福岡農総試研報 B-6 : 39-44.
- 5) 山田健一 (1987) 九病虫研会報 33 : 246.
- 6) 福岡県 (1987) 昭和63年度福岡県果樹・茶病害虫防除基準 1-220.

(1988年3月8日 受領)